

□□□□□□□□ワーキングプアに関する連合・連合総研共同調査研究報告書 I
 —ケースレポート編—
 ～困難な時代を生きる 120 人の仕事と生活の経歴～

「働く貧困層（ワーキングプア）に関する調査研究委員会」

| | | |
|----------|-------|--------------------|
| (主 査) | 福原 宏幸 | 大阪市立大学大学院経済学研究科・教授 |
| (委 員) | 西田 芳正 | 大阪府立大学人間社会学部・准教授 |
| | 樋口 明彦 | 法政大学社会学部・准教授 |
| | 村上 英吾 | 日本大学経済学部・准教授 |
| | 吉中 季子 | 大阪体育大学健康福祉学部・講師 |
| (オブザーバー) | 西村 博史 | 労働調査協議会・主幹研究員 |

連合総研では、ワーキングプアの実態を把握することを目的として、連合非正規労働センター・総合政策局と共同で、2009 年 1 月に「働く貧困層（ワーキングプア）に関する調査研究委員会」（主査：福原宏幸大阪市立大学大学院経済学研究科教授）を設置した。

本調査研究委員会では、雇用形態、年収等に注目して対象となり得る地域・集団を検討したうえで、聞き取りおよびアンケート調査を行うことによって、労働条件、社会保障適用の問題、また生活問題の現状を中心に、ワーキングプアの実態に迫ることを企図した。

委員会としては、これらの研究成果を 2 冊の報告書にまとめることとした。1 冊は 120 人におよぶ聞き取り調査対象者の生の声を集めたケースレポート集（ケースレポート編）であり、もう 1 冊は研究委員会メンバーが聞き取り調査およびアンケート調査の結果について分析を行ったもの（分析編）である。本報告書は、このうち、第 1 冊目のケースレポート集にあたる（分析編は近刊予定）。

聞き取り調査にあたっては、これまでの職歴を中心にして、調査対象者個々人の生活史をひも解くことにより、これらの人々が現状に至るまでの経過にも迫るように努めた。

調査の結果、以下のことが明らかとなった。第 1 に、子どもころからの生育歴が聞き取り対象者たちの今日の状況に深く影響していることが明らかとなった。第 2 に、初職が正規職であれ非正規職であれ、その後転職を繰り返す（あるいは繰り返さざるをえない）という「雇用の不安定さ」が見てとれる。第 3 に、社会的なつながりが希薄であり、場合によっては切断されるという特徴が浮かび上がった。第 4 に、雇用保険、健康保険、年金保険などの既存の社会保障制度への加入状況は総じて低く、これらの制度はワーキングプア人々の困難を前にして機能不全に陥っている。一方で、社会活動を行っているさまざまな団体や労働組合による支援活動が広がりはじめていることも示唆された。

目 次

- ◇はじめに
- ◇「ワーキングプアに関する連合・連合総研共同調査研究報告書 I—ケースレポート編」について
- ◇調査研究報告書 I の概要
- ◇ケースレポート事例要約
- ◇ケースレポート